

### Ⅲ 調査結果（属性別集計）

#### 1. 幸福感

**問1-1** 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ○で囲んでください。（○は1つだけ）

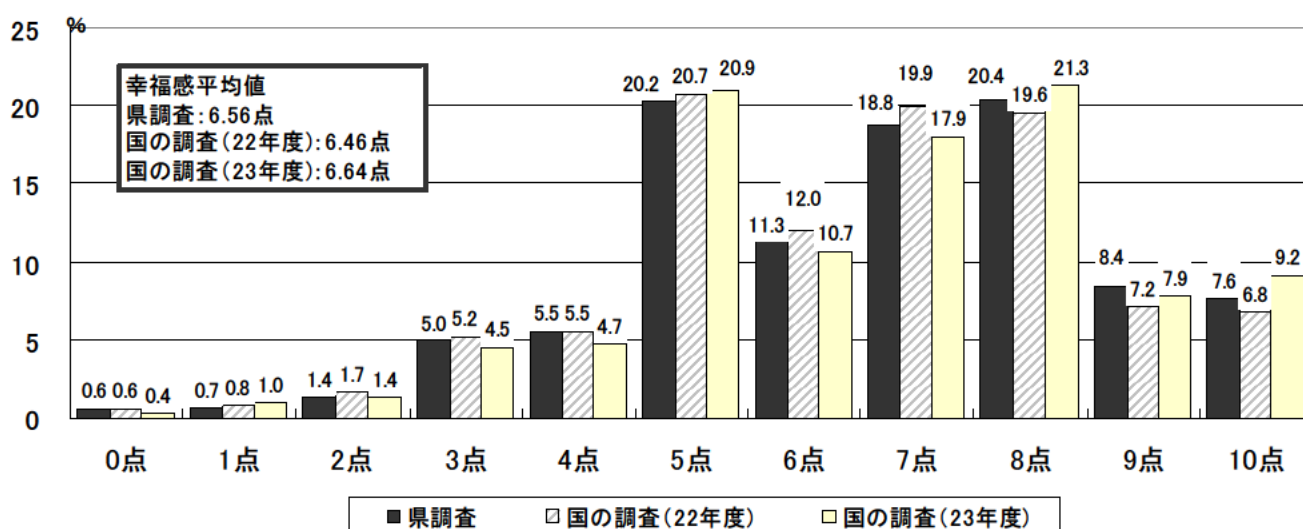
日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、内閣府の国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）の質問に準じ、10点満点で質問したところ、平均値は6.56点となっている。

分布をみると、「8点」が20.4%と最も高く、次いで「5点」が20.2%、「7点」が18.8%となっており、M字曲線を描いている。

国の調査（22年度）の平均値は6.46点となっており、「5点」が20.7%と最も高く、次いで「7点」（19.9%）、「8点」（19.6%）となっている。

なお、内閣府経済社会総合研究所が新たに平成24年3月に実施した「第1回生活の質に関する調査」においても同様の質問をしており、その結果によれば、幸福感の平均値は6.64点となっている。

図表 3-1-1 日ごろ感じている幸福感の平均値と分布(国の調査との比較)



※国の調査は、15歳以上を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点がある。

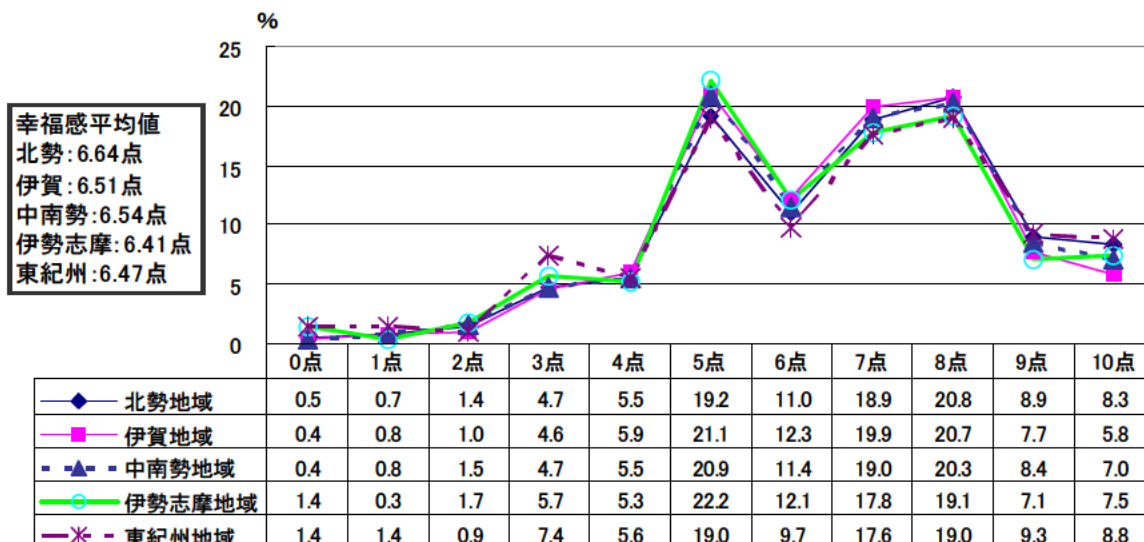
※国の調査（22年度）・・・平成22年度国民生活選好度調査（内閣府、平成23年3月実施、n=3,569）

※国の調査（23年度）・・・第1回生活の質に関する調査（内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施、n=6,451）

### 【地域別】

幸福感の平均値は、北勢地域が 6.64 点で最も高く、次いで中南勢地域が 6.54 点、伊賀地域が 6.51 点、東紀州地域が 6.47 点、伊勢志摩地域が 6.41 点となっている。

図表 3-1-2 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(地域別)



### 【性別】

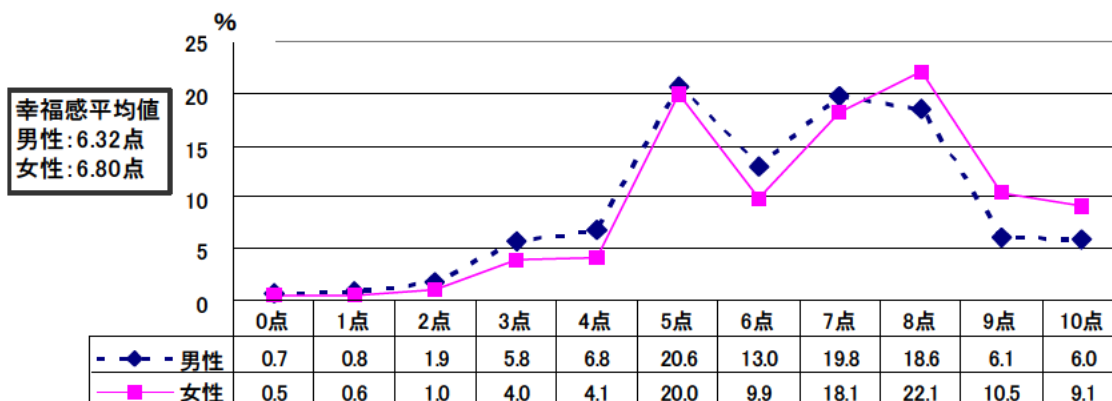
幸福感の平均値は、女性が 6.80 点で、男性 (6.32 点) より高くなっている。

国の調査においても、平均値は女性の方が男性より高くなっている。

分布をみると、男性は「5点」(20.6%)、女性は「8点」(22.1%) が最も多くなっている。

また、女性は7点以上が 59.8%を占める一方、男性では 50.5%となっている。

図表 3-1-3 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(性別)

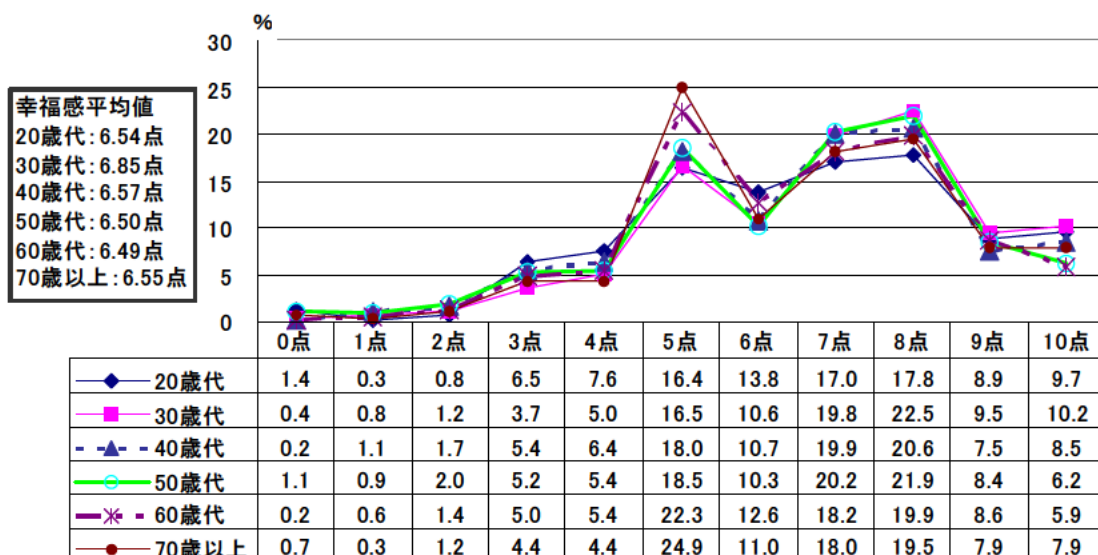


【年代別】

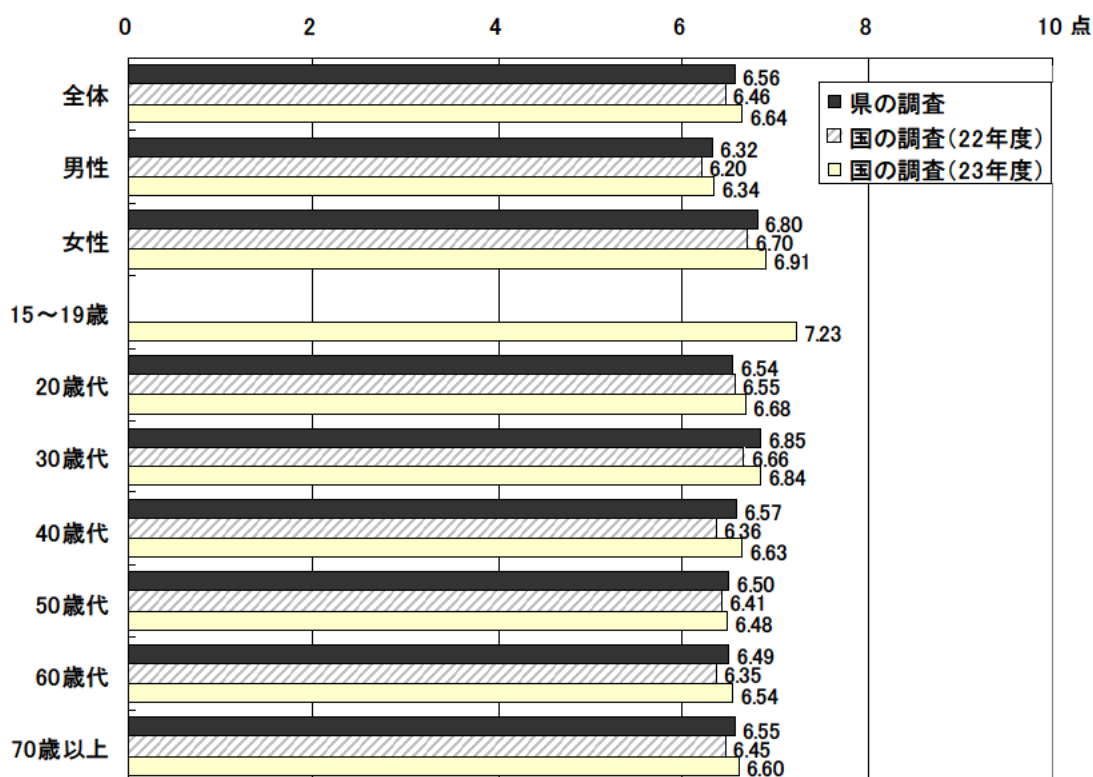
30歳代の平均値が6.85点と最も高く、次いで40歳代(6.57点)、70歳以上(6.55点)となっている。分布をみると、20歳代から50歳代は「8点」、60歳代以上は「5点」が最も高く、特に、30歳代は7点以上の割合が61.8%と高くなっている。

国の調査(22年度)によると、30歳代が6.66点と最も高く、次いで20歳代が6.55点、70歳以上が6.45点となっている。

図表 3-1-4 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(年代別)



図表 3-1-5 日ごろ感じている幸福感平均値(性別、年代別による国の調査との比較)



※国の調査(22年度)・・・平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)

※国の調査(23年度)・・・第1回生活の質に関する調査(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)

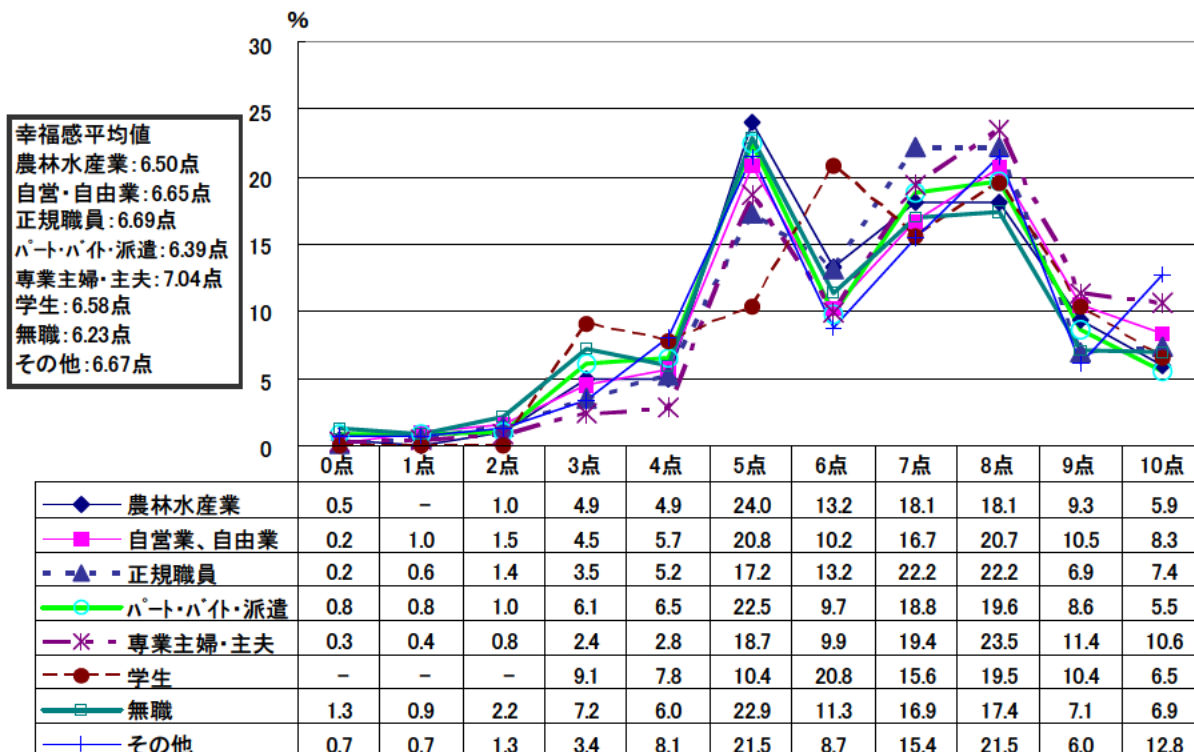
※国の調査は15歳以上を調査対象とし、国の調査(22年度)では15~29歳で集計しているが、ここでは20歳代として示した。

### 【主な職業別】

専業主婦・主夫の平均値が7.04点と最も高く、次いで正規職員(6.69点)、自営業・自由業(6.65点)となっている。一方、無職は6.23点とやや低くなっている。

7点以上の割合は、専業主婦・主夫が64.8%と高い一方、無職は48.3%と低くなっている。

図表 3-1-6 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(主な職業別)



※グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

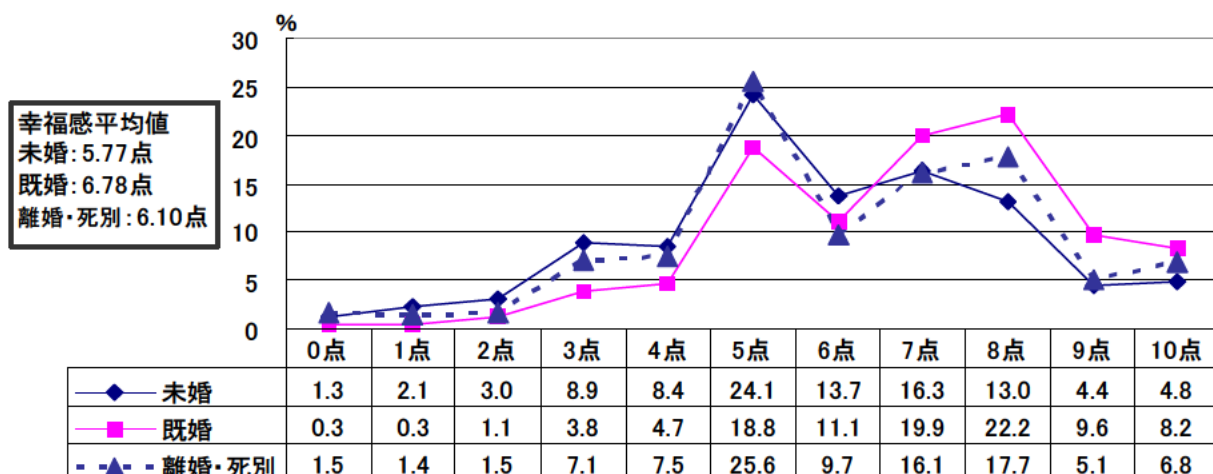
### 【結婚別】

既婚が6.78点と高く、離婚・死別(6.10点)、未婚(5.77点)の順となっている。

未婚は7点以上の割合が38.5%と低く、4点以下の割合が23.6%と高くなっている。

離婚・死別も未婚と同様に、7点以上が45.7%と低く、4点以下の割合が19.0%と高くなっている。

図表 3-1-7 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(結婚別)

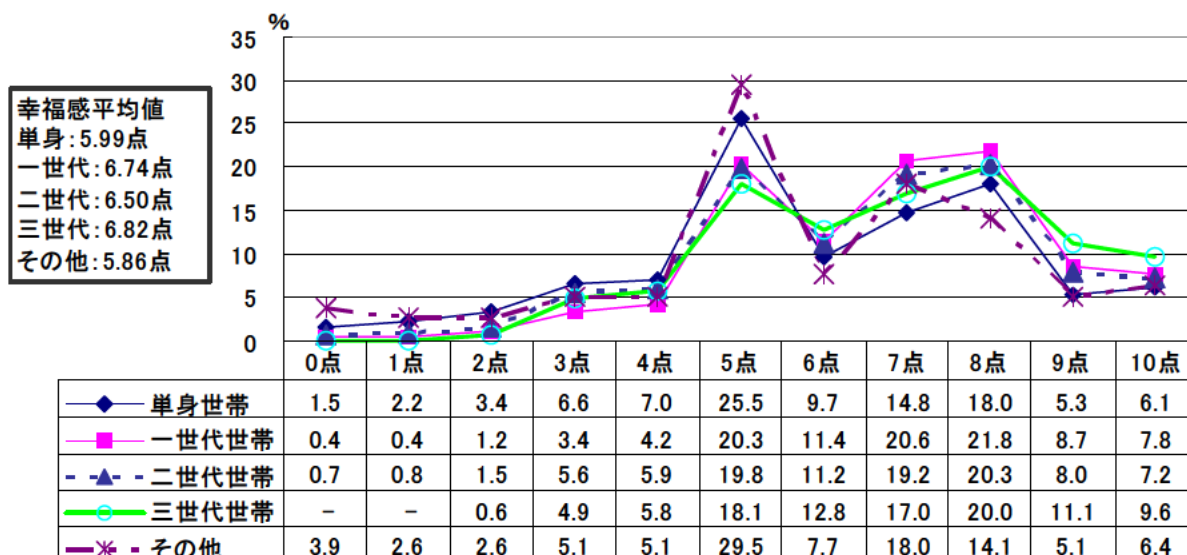


※グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

### 【世帯構成別】

三世帯世帯が6.82点と最も高く、次いで一世代世帯(6.74点)、二世帯世帯(6.50点)となっている。単身世帯は5.99点と低く、7点以上の割合は44.2%となっている。

図表 3-1-8 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(世帯構成別)



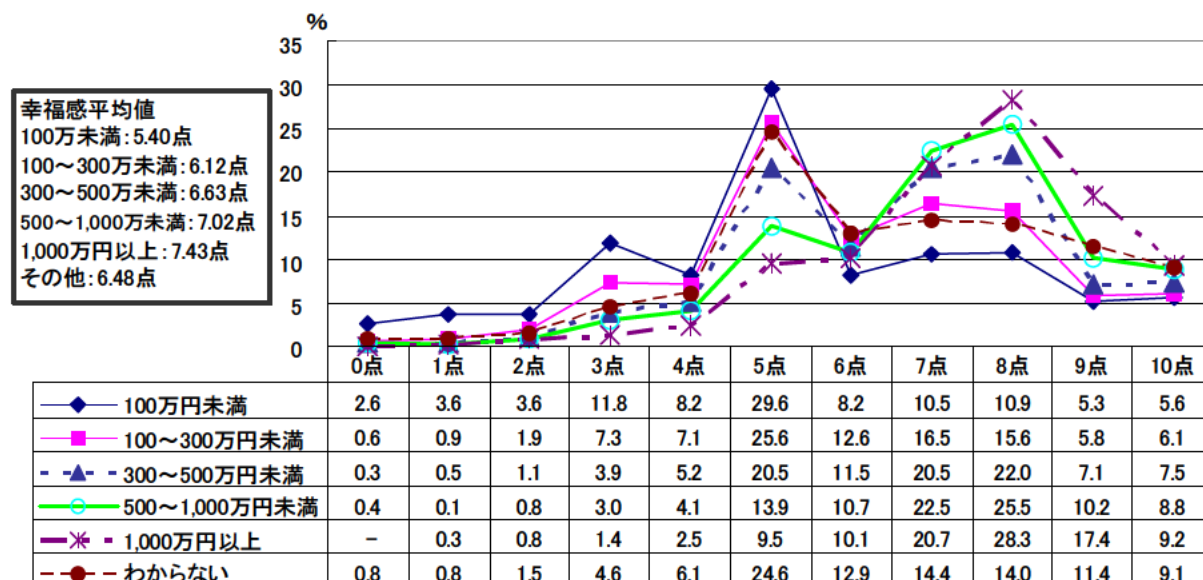
※グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

### 【世帯全体の年間収入別】

1,000万円以上は7.43点と高い一方、100万円未満は5.40点と低く、世帯全体の年間収入額が高くなるほど平均値も高くなっている。

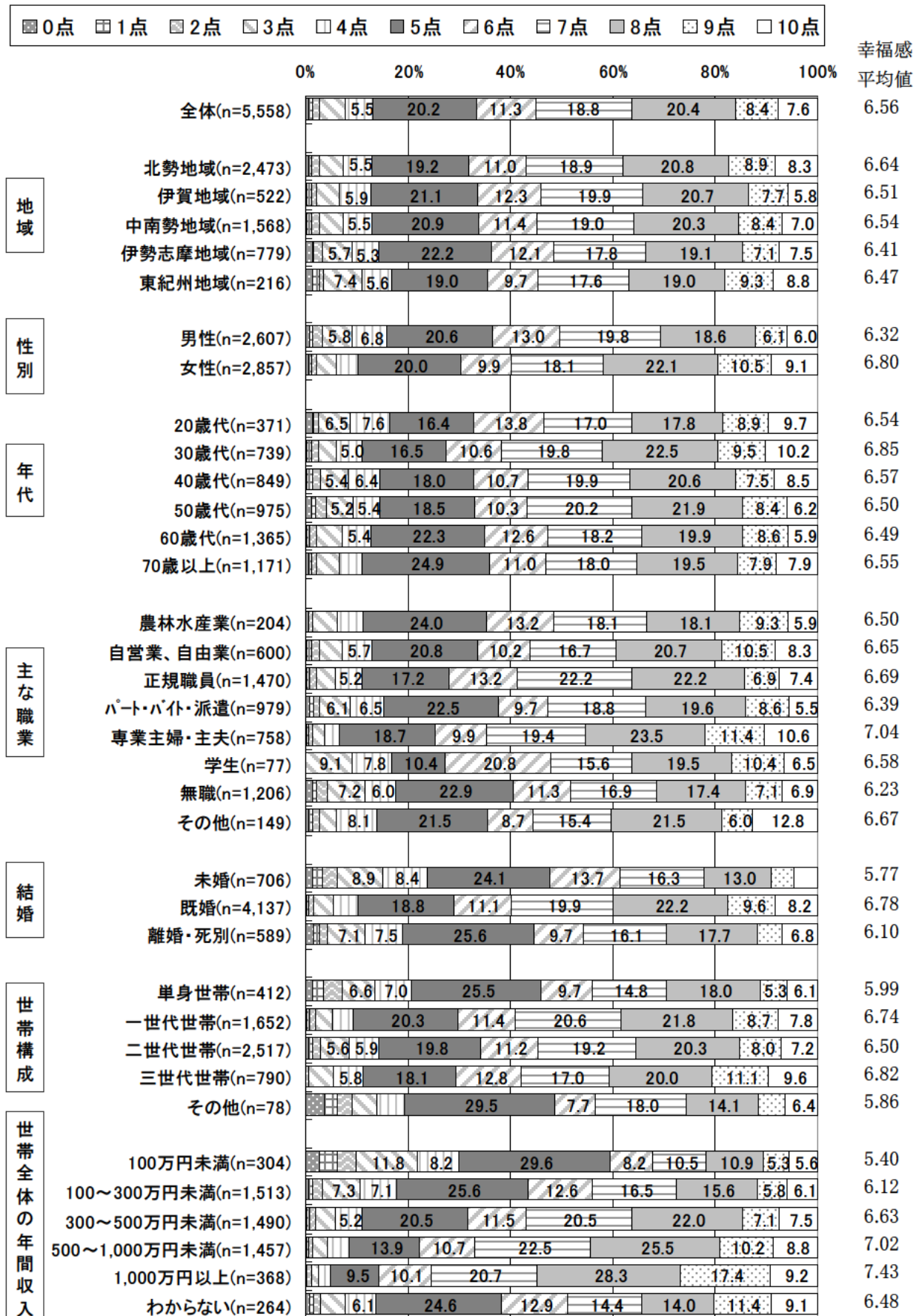
7点以上の割合は、1,000万円以上は75.5%と高い一方、100万円未満は32.2%、100~300万円は44.0%と低くなっている。4点以下の割合では、1,000万円以上は4.9%と低い一方、100万円未満は29.9%、100~300万円未満は17.8%と高くなっている。

図表 3-1-9 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(世帯全体の年間収入別)



※グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

図表 3-1-10 日ごろ感じている幸福感平均値と分布

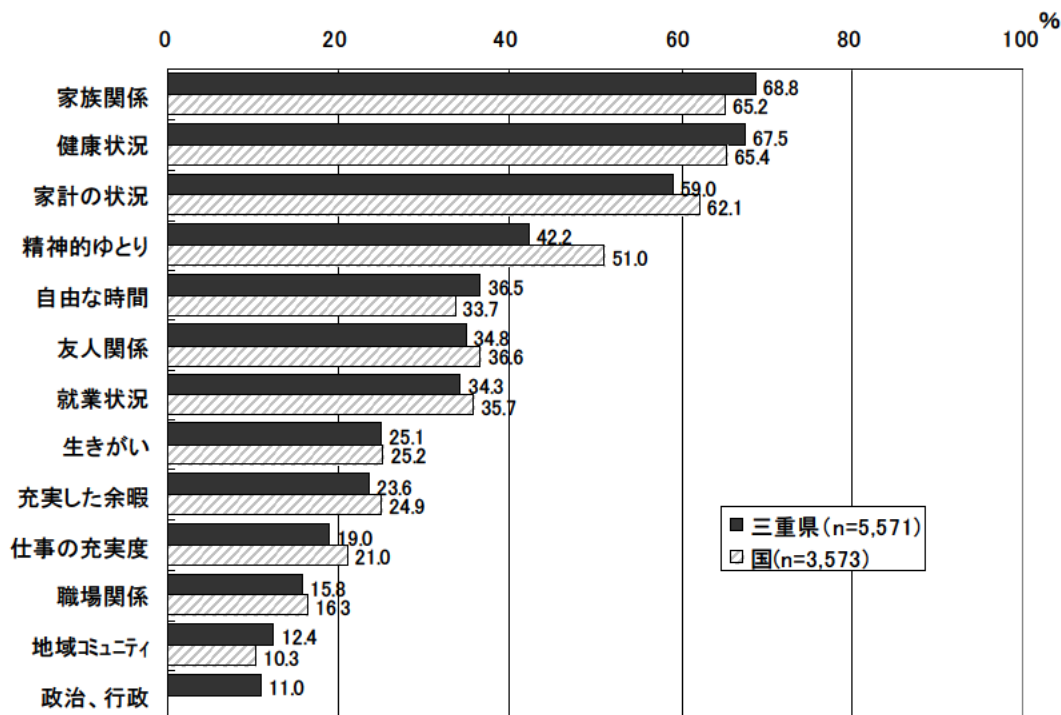


**問1-2** 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

幸福感を判断する際に重視した事項では、「家族関係」が68.8%と最も高く、次いで「健康状況」(67.5%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.0%)、「精神的なゆとり」(42.2%)となっている。

国の調査によると、「健康状況」が65.4%と最も高く、次いで「家族関係」(65.2%)、「家計の状況」(62.1%)となっている。国の調査と比較すると、重視した事項に大きな差はみられないが、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」などの割合は三重県調査の方が国の調査よりやや低くなっている。

図表 3-1-11 幸福感を判断する際に重視した事項〔複数回答〕(国との比較)



※国の調査…平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)。なお、「政治、行政」の選択肢はない。

※「第1回生活の質に関する調査」(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)にこの質問は含まれていない。

**【地域別】**

すべての地域で「家族関係」が最も高く、次いで「健康状況」、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」となっており、特に大きな差はみられない。

図表 3-1-12 幸福感を判断する際に重視した事項〔複数回答〕(地域別上位5項目)

(%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	家族関係 68.7	健康状況 67.6	家計の状況 60.2	精神的ゆとり 43.6	友人関係 35.7
伊賀地域	家族関係 71.2	健康状況 70.9	家計の状況 57.1	精神的ゆとり 40.6	自由な時間 36.8
中南勢地域	家族関係 69.4	健康状況 68.1	家計の状況 59.8	精神的ゆとり 40.7	自由な時間 38.1
伊勢志摩地域	家族関係 65.6	健康状況 64.6	家計の状況 54.5	精神的ゆとり 42.2	自由な時間 37.9
東紀州地域	家族関係 72.1	健康状況 65.1	家計の状況 60.9	精神的ゆとり 40.9	自由な時間 40.5

### 【性別】

男性は「健康状況」(67.0%)、女性は「家族関係」(71.8%)が最も高くなっている。

上位4項目は同じ項目となっているが、5位に、男性は就業状況(37.3%)、女性は友人関係(41.2%)が挙がっている。

図表3-1-13 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(性別上位5項目) (%)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	健康状況 67.0	家族関係 65.6	家計の状況 60.1	精神的ゆとり 41.0	就業状況 37.3
女性	家族関係 71.8	健康状況 68.2	家計の状況 58.4	精神的ゆとり 43.6	友人関係 41.2

### 【年代別】

いずれの年代も「家族関係」を重視する割合は高くなっている。また、60歳代以上は「健康状況」が最も高くなっている。20歳代では、「友人関係」が2位に挙がっている。

「家計の状況(所得・消費)」は20歳代、70歳以上はそれぞれ49.3%、45.7%となっているが、40歳代、50歳代はそれぞれ69.0%、68.4%と高くなっている。

図表3-1-14 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(年代別上位5項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 60.5	友人関係 52.0	家計の状況 49.3	健康状況 49.1	精神的ゆとり 47.7
30歳代	家族関係 74.2	健康状況 62.2	家計の状況 61.0	就業状況 45.3	精神的ゆとり 43.2
40歳代	家族関係 72.6	家計の状況 69.0	健康状況 68.5	就業状況 50.7	精神的ゆとり 40.3
50歳代	家族関係 71.1	健康状況 69.5	家計の状況 68.4	就業状況 49.2	精神的ゆとり 42.5
60歳代	健康状況 71.1	家族関係 66.7	家計の状況 59.8	精神的ゆとり 44.9	自由な時間 37.7
70歳以上	健康状況 70.7	家族関係 66.0	自由な時間 51.4	家計の状況 45.7	友人関係 39.3

### 【性・年代別】

さらに、性・年代別でみると、40歳代と50歳代の男性は「家計の状況(所得・消費)」が「家族関係」や「健康状況」よりもわずかではあるが高くなっている。また、30歳代の女性は「家族関係」が80.0%と特に高くなっている。

図表3-1-15 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(男性・年代別上位5項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家計の状況 家族関係 51.1	就業状況 49.4	健康状況 友人関係 48.9		
30歳代	家族関係 66.7	家計の状況 61.7	健康状況 58.3	就業状況 48.0	精神的ゆとり 42.1
40歳代	家計の状況 69.0	家族関係 68.7	健康状況 64.5	就業状況 50.4	精神的ゆとり 37.1
50歳代	家計の状況 67.9	健康状況 家族関係 66.6	就業状況 53.5	精神的ゆとり 42.2	
60歳代	健康状況 71.8	家族関係 67.7	家計の状況 62.6	精神的ゆとり 44.8	就業状況 32.2
70歳以上	健康状況 73.3	家族関係 64.5	家計の状況 48.0	自由な時間 45.9	精神的ゆとり 37.0



図表 3-1-16 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(女性・年代別上位5項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 69.2	友人関係 55.1	精神的ゆとり 51.0	健康状況 49.0	家計の状況 47.5
30歳代	家族関係 80.0	健康状況 65.2	家計の状況 60.5	友人関係 46.0	精神的ゆとり 44.1
40歳代	家族関係 75.5	健康状況 71.4	家計の状況 69.0	就業状況 50.8	精神的ゆとり 42.7
50歳代	家族関係 75.2	健康状況 72.2	家計の状況 68.9	就業状況 45.3	精神的ゆとり 42.7
60歳代	健康状況 70.4	家族関係 65.9	家計の状況 57.1	精神的ゆとり 44.9	自由な時間 43.5
70歳以上	健康状況 67.9	家族関係 67.4	自由な時間 57.7	友人関係 48.4	家計の状況 43.6

【主な職業別】

農林水産業、自営業・自由業、無職は「健康状況」、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、専業主婦・主夫は「家族関係」がそれぞれ最も高くなっている。

図表 3-1-17 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(主な職業別上位5項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	健康状況 69.3	家族関係 67.3	家計の状況 51.7	精神的ゆとり 40.5	自由な時間 35.6
自営業、自由業	健康状況 69.0	家族関係 68.4	家計の状況 60.1	就業状況 42.5	精神的ゆとり 42.0
正規職員	家族関係 70.0	健康状況 66.8	家計の状況 66.6	就業状況 53.6	精神的ゆとり 41.4
パート・アルバイト・派遣	家族関係 66.8	健康状況 65.3	家計の状況 62.1	就業状況 48.2	精神的ゆとり 39.9
専業主婦・主夫	家族関係 78.8	健康状況 72.1	家計の状況 60.6	精神的ゆとり 46.1	自由な時間 43.8
学生	友人関係 67.5	家族関係 64.9	精神的ゆとり 59.7	自由な時間 55.8	健康状況 51.9
無職	健康状況 69.1	家族関係 64.1	自由な時間 50.1	家計の状況 49.7	精神的ゆとり 43.1
その他	家族関係 64.7	健康状況 64.0	家計の状況 58.0	精神的ゆとり 39.3	就業状況 36.7

【結婚別】

いずれも、「健康状況」、「家族関係」、「家計の状況(所得・消費)」が上位に挙がっており、既婚は「家族関係」が73.8%と特に高くなっている。

図表 3-1-18 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(結婚別上位5項目)

(%)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	健康状況 57.8	家計の状況 55.3	家族関係 49.3	精神的ゆとり 48.4	就業状況 48.0
既婚	家族関係 73.8	健康状況 69.9	家計の状況 61.4	精神的ゆとり 41.5	自由な時間 34.5
離婚・死別	健康状況 64.0	家族関係 58.6	家計の状況 50.7	自由な時間 44.8	精神的ゆとり 42.2

### 【世帯構成別】

単身世帯を除くすべての世帯で、「家族関係」が最も高く、次いで「健康状況」、「家計の状況（所得・消費）」となっている。

単身世帯は「健康状況」（67.0％）が最も高く、次いで「家計の状況（所得・消費）」、「自由な時間」となっている。

図表 3-1-19 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（世帯構成別上位5項目）

（％）

世帯構成	1位		2位		3位		4位		5位	
単身世帯	健康状況	67.0	家計の状況	51.7	自由な時間	47.8	精神的ゆとり	47.0	家族関係	43.8
一世代世帯	家族関係	70.8	健康状況	70.6	家計の状況	59.3	精神的ゆとり	43.0	自由な時間	41.4
二世帯世帯	家族関係	69.2	健康状況	66.2	家計の状況	61.2	精神的ゆとり	41.9	就業状況	40.3
三世帯世帯	家族関係	77.2	健康状況	67.8	家計の状況	57.3	精神的ゆとり	39.9	友人関係	37.7
その他	家族関係	65.0	健康状況	56.3	家計の状況	53.8	精神的ゆとり	47.5	自由な時間	36.3

### 【世帯全体の年間収入別】

300万円未満の層は「健康状況」、300万円以上の層では「家族関係」が最も高くなっている。

「家族関係」、「健康状況」、「家計の状況（所得・消費）」は、世帯全体の年間収入額が多いほど高くなっている。

図表 3-1-20 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（世帯全体の年間収入別上位5項目）

（％）

世帯全体の年間収入	1位		2位		3位		4位		5位	
100万円未満	健康状況	59.5	家族関係	50.5	家計の状況	44.2	自由な時間	40.8	精神的ゆとり	37.8
100～300万円未満	健康状況	65.9	家族関係	61.4	家計の状況	52.3	精神的ゆとり	41.3	自由な時間	38.9
300～500万円未満	家族関係	71.6	健康状況	67.8	家計の状況	59.6	精神的ゆとり	44.2	自由な時間	37.1
500～1,000万円未満	家族関係	76.2	健康状況	69.8	家計の状況	68.0	就業状況	46.8	精神的ゆとり	41.5
1,000万円以上	家族関係	78.3	健康状況	75.9	家計の状況	75.1	就業状況	51.2	精神的ゆとり	45.0
わからない	家族関係	64.3	健康状況	62.4	自由な時間	51.7	友人関係	48.7	家計の状況 精神的ゆとり	43.7

(幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係について)

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した人の幸福感の平均値と、選択しなかった人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族関係」が最も差が大きく、選択した(重視する)人は7.01点で、選択しなかった(重視しない)人(5.59点)より1.42点高くなっている。

また、「家計の状況(所得・消費)」と「政治、行政」の2項目について、選択した(重視する)人は選択しなかった(重視しない)人より幸福感は低くなっている。

図表3-1-21 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した人と選択しない人の幸福感の平均値

